

# 平成22年度第2回定例会

## 八王子市教育委員会会議録

日	時	平成22年4月28日(水)	午前9時
場	所	教育センター	3階 第3研修室

## 第 2 回定例会議事日程

- 1 日 時 平成 2 2 年 4 月 2 8 日 ( 水 ) 午前 9 時
  - 2 場 所 教育センター 3 階 第 3 研修室
  - 3 報 告 事 項
    - ・ 八王子市立学校における学校運営協議会運営状況について ( 教育総務課 )
    - ・ 平成 2 3 年度八王子市立小学校使用教科用図書採択における教科用図書選定資料作成委員会の設置に関する要項について ( 指導課 )
    - ・ 平成 2 2 年度全国学力・学習状況調査の実施状況について ( 指導課 )
- 

### 八王子市教育委員会

#### 出席委員 ( 5 名 )

委 員 長	( 1 番 )	小田原	榮
委 員	( 2 番 )	和 田	孝
委 員	( 3 番 )	川 上	剋 美
委 員	( 4 番 )	水 崎	知 代
教 育 長	( 5 番 )	石 川	和 昭

### 教育委員会事務局

教 育 長 ( 再 掲 )	石 川 和 昭
学 校 教 育 部 長	坂 倉 仁
学 校 教 育 部 指 導 担 当 部 長	佐 島 規
教 育 総 務 課 長	穴 井 由 美 子
学 校 教 育 部 主 幹 ( 企 画 調 整 担 当 )	平 塚 裕 之

施設整備課長	萩生田 孝
学事課長	海野 千細
学校教育部主幹 (保健給食担当)	松岡 秀俊
指導課長	豊田 学
指導課統括指導主事 (教育施策担当)	宮崎 倉太郎
指導課統括指導主事 (特別支援教育・教育センター担当)	藏 重 佳 治
指導課統括指導主事 (企画調整担当)	所 夏 目
指導課前任指導主事	窪 宏 孝
生涯学習スポーツ部長	榎本 茂保
生涯学習スポーツ部参事 (図書館担当)	望月 正人
生涯学習総務課長	桑原 次夫
スポーツ振興課長	遠藤 辰雄
生涯学習スポーツ部主幹 (スポーツ施設担当)	遠藤 幸保
生涯学習スポーツ部主幹 (国民体育大会開催準備担当)	富貴澤 繁幸
学習支援課長	設楽 いづみ
文化財課長	渡辺 徳康
生涯学習スポーツ部主幹 (図書館担当)	中村 照雄
生涯学習スポーツ部主幹 (こども科学館担当)	齋藤 和仁

指導課指導主事	木下 雅雄
教育総務課主査	町田 和雄
指導課主査	和田 嘉代

事務局職員出席者

教育総務課主査	後藤 浩之
教育総務課主任	川村 直
教育総務課主任	久保 陽子

【午前9時00分開会】

小田原委員長 大変お待たせいたしました。

本日の委員の出席は5名全員でございますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成22年度第2回定例会を開会いたします。

日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は、4番 水崎知代委員 を指名いたします。よろしくお願います。

小田原委員長 それでは、日程に従いまして進行いたします。

本日は議案審議がございませんので、報告事項のみとなります。

まず、教育総務課から順次御報告を願います。

穴井教育総務課長 八王子市立学校における学校運営協議会の運営状況について御報告さしあげます。

それでは、詳細については、担当の主査から説明いたします。

町田教育総務課主査 八王子市立学校における学校運営協議会の運営状況についてでございますが、八王子市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則第13条3項の規定に基づき、学校運営協議会より教育委員会に報告がされております。

お配りしてある資料1をごらんください。平成21年度の学校運営協議会の運営状況についてまとめたものでございます。

平成19年度に学校運営協議会を設置する学校として、東浅川小学校、第六中学校、宮上中学校を指定し、3年間経過をしております。また、平成20年度には陶鎔小学校、浅川小学校、元八王子中学校、城山中学校を指定し、2年間が経過し、平成21年度には梶田小学校、中山小学校、宮上小学校、下柚木小学校、第一中学校、陵南中学校を指定し、1年間経過しております。

まず、学校運営協議会の活動内容でございますが、定例会を年間に10回から12回、おおむね月1回開催しております。また、小中学校で合同協議会を開催したり、中学校の学校運営協議会が小学校に出向く形での協議会も開催しております。先進地区への視察や講演会も開催しています。

次に、学校運営協議会の成果でございますが、指定1年目の協議会は、協議会の位

置つけや方向性が見え、地域の保護者との連携の面で、指定2年目の協議会は、協議自体の活発化や、教職員との連携強化につながり、指定3年目の協議会は、小中一貫教育への取り組み、活動の充実へと発展しております。

また、学校運営協議会の課題でございますが、多くの協議会が地域への情報発信が足りていないことと、協議会事務局の整備を上げております。指定1年目の協議会は、協議会の理解やあり方、教職員との連携において、指定2年目の協議会は、協議会の意義の周知や自主的な運営、地域、保護者の意見集約について、指定3年目の協議会は、連携体制の一層の充実や、小中一貫教育の具体的な推進を課題としております。

最後に、学校運営協議会の今後の取り組みでございますが、指定1年目の協議会は、部会などの運営、人材の活用について、指定2年目の協議会は、協議会の計画的、組織的な運営や、地域、保護者の理解、協力において、指定3年目の協議会は、協議会活動の一層の充実、大学との連携についても取り組んでいきたい内容としております。

なお、学校ごとの運営状況の概要でございますが、説明は省略いたしますが、次の資料2のような状況となっております。

以上で説明を終わります。

小田原委員長　　ただいま八王子市立学校における学校運営協議会運営状況についての報告が終わりました。

本件について、御質疑、御意見はございませんか。いかがですか。

では、私のほうからですが、課題と取り組みが示されているわけなのですが、この課題、1年目、2年目、3年目と、こうあるわけですけれども、それはその上の成果の部分とは連動しているというふうになるのですか。どうなのですか、これは。

町田教育総務課主査　　基本的には連動しております。

ただ、3年目を過ぎたところで、各1年目の学校の協議会にも情報等が入るものですから、以前のように、1年目だからここまで、2年目だからここまでという状況はなくなりまして、かなり協議会の推進、協議会自体の推進の程度がばらけてきている状況にはございます。

小田原委員長　　例えば前の発表会のときに出てきた、例えば教員の参加というか、教員の理解が不足しているというのがありましたね。それは1年目のときの教職員との連携というところで課題としてあったわけなのだけれども、3年目の報告会においても、まだそういう問題が提起されているということは、課題としてはどういうふうにとら

えていいのか。つまり、3年目の課題としては出てこないけれども、それは一部にとどまってというふうを考えていいことなのだというふうになるのかどうか。

町田教育総務課主査 教職員との連携においては、もう3年目の学校においては、かなり進んでおります。また、なかなか進まないような学校においては、先般、実は学校のほうに私のほうが赴きまして、全教職員と学校運営協議会委員さんに向けて私のほうでお話をさせていただいたような状況もございます。

小田原委員長 ああ、そうか。これは、そうすると、3年目というのは指定3年目の学校の課題というふうに、そう受け取るべきだということなのですね。

町田教育総務課主査 はい。

小田原委員長 なるほど。わかりました。

ということですが、いかがですか。

特にないようでございますので、よろしいですか。

では、次に、指導課から2件、御報告願います。

宮崎指導課統括指導主事 平成23年度八王子市立小学校使用教科用図書採択における教科用図書選定資料作成委員会の設置に関する要項について、報告をさせていただきます。

本件は、前回の定例会で議題に供しました平成23年度八王子市立小学校使用教科用図書採択要項に基づいて、教育長決裁で決定をしたものでございます。

詳細については、担当主査の和田より報告いたします。

和田指導課主査 それでは、私から、教科用図書選定資料作成委員会について御説明をいたします。資料を見ていただきたいと思えます。

資料作成委員会の構成や任務につきましては、要項の2をごらんください。ここでは、資料作成委員会が、各学校での調査結果や、本市の教育センターに設置しております、教科書センターにおける市民の方々からのアンケートを参考にしながら、調査研究を行うことを示しております。

また、要項の3では、教科別調査部会の構成及び任務を示しております。今回の採択では、すべての教科につきまして教科別調査部会を設けることとなります。

なお、採択を公正かつ適正に実施するための項目として、4及び5の部分で、守秘義務に係ることや委員としての欠格事項をお示ししております。

最後につけましたページでございます。今回の採択に係る事務の流れについてのイ

メージ図を添付しておりますので、ご覧いただきたいと思います。

現在ですが、各委員の決定等を進めておりまして、5月11日に、第1回の資料作成委員会及び教科別調査部会を開催する予定であります。また、教科書見本本がそろいましたら、学校における調査についてもスムーズに進めることができますよう準備を進めております。可能な限り余裕を持った日程で、正確な資料の作成ができるよう事務局として努力していきたいと思っております。

私からの説明は以上です。

小田原委員長 指導課から、教科用図書選定資料作成委員会の設置に関する要項についてでございますが、何か御質疑、御意見はございませんか。どうぞ。

水崎委員 前回の採択要項とあわせて事前に見せていただいた資料に基づいて、私なりに考えた御意見はさせていただきます、それで検討した結果、こういうものができ上がったということで、私は内容的に見ても問題はないと思いますので、特に異議はありません。

小田原委員長 そのほかいかがですか。どうぞ。

和田委員 この、先ほどの公平・公正を期すための5のところ、教科書及び教師用指導書の著者を除外するということになっていきますけど、こういったものの確認というのは、本人からの申告ということになるのでしょうか。あるいは、相当数いるということになりますか。それとも、まれにという状況なのですか。

宮崎指導課統括指導主事 今回の御質問ですけれども、基本的には本人からの申告ということになります。学校長を通して推薦という形になりますので、それぞれその欠格事項に照らして、それに該当しないかどうかという確認をして、本人が確認をするという形になっております。

数については、正直申し上げて、つかんでおりません。

小田原委員長 そのほかいかがですか。

では、特にならぬようでございますので、この件につきましては、よろしゅうございますか。

では、引き続いて、平成22年度全国学力・学習状況調査の実施状況について御報告を願います。

宮崎指導課統括指導主事 この4月、平成22年の4月20日に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されましたので、ここで報告

をさせていただきます。

詳しくは指導主事の木下から御説明を申し上げます。

木下指導課指導主事 平成22年度全国学力・学習状況調査の実施状況について説明いたします。

本調査は、平成22年4月20日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施されました。

調査の目的、対象、調査内容等については、お手元の資料の1から4をごらんください。

5の調査方法につきましては、昨年度までの全校実施から、今年度より抽出方式となりました。八王子市は、抽出された学校のほか、調査を希望した学校に対して調査用紙を配布し、採点及び分析は本校で実施することといたしました。

調査校のうち、抽出校の割合について、全国の割合との差で見えていくと、小学校では16.7ポイント、中学校では16.8ポイント、小中学校全体で16.2ポイントいずれも下回っています。これは、東京都の抽出校の割合が全国の割合と比べて低くなっていることと同じ傾向であると言えます。

次に、希望校の割合については、小学校では20.8ポイント下回り、中学校では6.6ポイント上回りました。

小学校が全国及び東京都の希望校の割合を下回ったのは、東京都の児童生徒の学力向上を図るための調査及び市の学力調査により、児童の学力を把握することができていることが考えられます。

一方、中学校で全国の割合を上回ったのは、中学校では市の学力調査を実施しないことに加え、中学3年生の学力を4月当初に調査し、結果を集計及び分析することにより、生徒の学力や学習状況を把握し、生徒の学習状況の改善に役立てようとする検証サイクルが学校で定着していることが考えられます。

最後に、全国学力・学習状況調査の今後の活用について説明いたします。

抽出校については、文部科学省からの抽出結果の提供を受け次第、学力向上推進委員会と連携し、調査結果の分析を行い、学力向上策を企画立案していきます。

また、平成23年2月24日に、学校を対象に学力向上等に関する報告会を行い、分析の報告及び改善策を提示し、学力向上に向けた取り組みの一層の推進を図っていきます。

希望校については、それぞれの学校が独自に調査結果の集計及び分析を行い、学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や、学習状況の改善等に、迅速に役立てるよう支援していきます。

以上で、平成22年度全国学力・学習状況調査の実施状況についての説明を終わります。

小田原委員長 指導課からの報告は終わりました。

本件について、何か御質疑、御意見はございませんか。どうぞ。

和田委員 まず、抽出校については、国がランダムに選んでいるのかどうかわかりませんが、何か根拠が、この学校を選んだという方法なり何かあったら、教えていただきたいなというふうに思っているのですが、もう一つは、八王子市の小中学校に対して希望する学校をとっているわけですが、これは教育委員会全体の問題になってくると思うのですが、国がこういうふうな希望校による学力調査の方法をとっているわけなのですが、教育委員会として、例えばこの学校はずっと連続して希望してほしいとか、あるいは地域によっては、こういうところの学校を抽出してやっぱり受けさせていくべきだとか、あるいはもう八王子で独自の調査もやっているから、この希望校というのは余り希望しなくてもいいんじゃないかとか、というような方針を決めなくていいのかなというふうに思っているのですね。

つまり、学校長の考えだけで、希望するか、しないかということもあるでしょうけれども、教育委員会として継続して学力を調査していくというのであれば、毎年違うような学校が希望するようなことになっていって、データの集約というのが本当それでいいのかというあたり、2点、まずちょっとお聞きしたいのですけど。

まず、抽出校の何か選び方についての国からの説明はどうなっていますか。2つ目は、希望校に対して、ただ学校の校長が希望してきたからやりますよという形をとっているのか、あるいは、ある程度、教育委員会で受けたらどうかというような、そういう指導が入っているのか。その辺のところをちょっと教えてください。

宮崎指導課統括指導主事 まず1点目の、抽出校の選び方の基準というものですけれども、これは文部科学省のほうで抽出をするということが平成21年12月28日のいわゆる実施要領に記されております。

ただ、その方法については、方法ですとか、基準に当たるような記述はございませんので、そこについては、こちらとしてはつかめないというふうに思っております。

2点目の、希望校について、市としての一貫した方針が必要ではないかというお話でございますけれども、昨年度の途中で文部科学省のほうの実施の方針が変わってきたということもあり、今年度については、基本的に希望校で実施いたしました。

先ほど木下から報告がありましたように、小学校においては市の学力調査、これが4年・5年の経年を見るという意味でやっておりますので、希望校が少なかったと。中学校については、かなり中学校での全国のテストが、学力調査が定着していたという意味で多かったのかなというふうに思っておりますが、今後のことにつきましては、市の学力調査4年・5年のものについては、継続するという方針がございます。

それと、あわせて、全国の調査でもって子どもたちのさらに学力の状況を分析したいという学校の思いで希望したものと考えておりますが、市のほうで指定しますとなると、これはかなり採点ですとか、分析について、学校の負担もあるというところ、それから、それをまた市のほうで負担するということになると、かなり予算面がかかるということもございますので、先ほど話に出てまいりました学力向上推進委員会、ここのところで今年度の状況を踏まえて、今、委員の御指摘も踏まえて、今後の方向性について検討してまいりたいと思っております。

和田委員　これからは意見になるのですが、やっぱりこういう国が打って、方向転換したような状況、前の場合には悉皆という形で全校が対象になっているので、特にこちらのほうからの判断とかっていうのは必要になっていないと思うのですが、これからこういう希望制のような形をとったときには、どういう受け方をさせるかという基本的な方針をやっぱりこの教育委員会の中でよく話をして、こういう方向で行きましょうということをやったり示していただきたいなということと、それから、やっぱりそれに係る予算が必要であれば、学校の負担をできるだけ軽減するようなことも含めながら、予算についても計上しなければいけない、必要なものであれば、やっぱりこの委員会の話し合いの中で、ぜひ半数は受けてほしいと思いますね。

そういうような方向を決めたのであれば、予算的なこともぜひ検討していくような、そういうことが必要なんじゃないかなというふうに思っているのですが。何か希望制だけでやっていくと、何かばらばらしていってしまうような気がするのです。

小田原委員長　調査にはならないだろうと思えますね。先ほどの説明で、市としての分析をしていきたいというふうに話されたけれども、希望校は別としても、抽出校6校ということは1割にも満たない。それをもって、八王子市の小学校の6年生の学力は

というふうに言ってしまうといいものかどうかということが出てきますよね。

しかも、6校選ばれた、その根拠が明確でないとすれば、なおさらでしょう。

だから、これ気にはなっていたのだけれども、方針が変わった、やり方が変わったから、どういうふうになるのかなと、どうしたらいいのかなというのは、気にはなっていたのだけれど、ことしは希望制だからということでもって、任せようというふうに私は思っていたのだけれども。こういう数字になっていると、何のためにやっていくかということを考えていったときにね、やはり和田委員のお話のように、しっかりした市としての方針というものを持ってないと、いけないんじゃないかなと。

これは例えば100%の県とか、市とかがあるわけですよね。それはどういう形で100%になったのかというのは出ているのですかね。つまり、県なり市の教育委員会が全校希望するようというふうには指示があったのか、みんなが結果として手を挙げたのか。

宮崎指導課統括指導主事　すべてを私も把握しているわけじゃないですが、その自治体ごとに、自治体が予算を計上して、ペーパーは送られてくるわけですけど、その分析については業者を活用するか、あるいは自治体の職員が採点して集計するか、そういうところもあるというふうには聞いております。

ですので、学校が全部たまたま100%手を挙げたということではないというふうには把握しております。

小田原委員長　ほかにいかがですか。

希望しなかった理由としてはという、その理由が2つ上げられた。一つは、採点、分析業務に手間がかかるから、それを避けたということと、もう一つは、全部やるとすれば、予算面での後づけがなければできないことだということだったのですけれども、そういう理由でこれに参加しないという話になると、ちょっと話が違うわけですよね。

だから、きのう、ゆうべの話もありましたけれども、どこを向いているのかという話になっていきますから。いかがですか。

もう一つは、学力向上委員会にかけてと、その結論を待つという話だったのですけれども、学力向上委員会に預けちゃっていい話かどうかということもありますね。

宮崎指導課統括指導主事　まず、先ほど委員長がおっしゃった2つの理由ですけれども、その前に、もちろん木下が申し上げたような形で、市の学力調査というのを実施して

いますので、基本的にはこの市の学力調査で子どもの学力はかなり丁寧に把握できていると、学校や子どもの課題も把握できているというのはございます。

それから、もう1点、学力向上委員会ですけれども、私の言葉が足りませんでした。もちろん教育委員会の事務局としての基本的な考え方、これを示しながら、それに対してまた御意見をいただくと。それからまた、分析については、学力向上委員会の、特に校長先生方にも見ていただいて、御意見をいただくということでございます。

小田原委員長　いかがですか。

そうすると、いずれ次年度に向けてどういう姿勢で臨むかということは、改めて結果が出たところというふうになるのか。

今の統括の話だと、小学校の場合には市の学力調査が定着しているからというふうになると、もうこれは希望校、やらなくたっていいのだという話にもなっていきますよね。そういう話でいいのかどうか。

石川教育長　市の独自のものはね、要するに対象がどのぐらいかによって、全国の資料にかわることになると思うので、ちょっと今の本市でやっているのはサンプルが少ないんじゃないの。

それと、全国的な中で本市の子どもたちの学力がどうなのかという、そういう点では、本市独自のものでは十分ではないんじゃないの。となると、かわらないんじゃないの。これに取ってかわるということにはならないと思うよ。

本来、これはそれぞれの学校が決めるということで、私は特に異論があったわけじゃなくて、それはそれでいいと思うのだけれども、ただ、抽出校の数、割合が示されて、その中で学校が勝手に選んだわけだよ。そのときに、自治体によっては予算も全部つけますよと。県単位でやっているところもあれば、市、町、村でその予算を確保しているところもあるし、お金のないところは教育委員会の職員が採点に携わるといような、そんなところもあったわけだよ。

そういう支援体制がある程度、この辺のところまでについてやりますと言ったら、学校現場としては参加に手を挙げたのかどうか、その辺のところはどうなのですか。

宮崎指導課統括指導主事　こちらの支援、教育委員会としての支援は、例えば採点はやりますよということであれば、希望をとったとしても、希望する学校はふえてくるだろうというふうに思います。はっきりわかりませんが、そういう感触はあります。

石川教育長　私は、以前の教育委員会のときにね、ここの研究主事さんたちの力をかり

れば、かなりできるんじゃないかという話はしたと思うのだけれども。現に多摩市では、退職校長の皆さんが採点をするということを決めて、これは報道もされているのだけれども、その辺の働きかけはしたのかどうか。全くもう学校任せで、教育委員会は何もしなかったのか、その辺はどうなのですか。

宮崎指導課統括指導主事　今回につきましては、今、教育長が申されたような形の対応というのは、しておりません。

小田原委員長　教育長からそういう提案もあったのだけれども、働きかけはしなかった。それはなぜかというのはあるのですか、しなかったのは。

宮崎指導課統括指導主事　今回、既に希望をとった段階で、学校のほうにも自校で採点ということ伝えておりましたし、今後検討していくことは必要かと思えますけれども、今回についてはそういうことでした。

水崎委員　学校から、市で、教育委員会でお金を出してくれないのかというような、そういう意見というのは出てきてないのですか。特に今回希望をするに於いての学校からの御意見というのは、上がってきているのですか。

宮崎指導課統括指導主事　私のほうでは、ぜひ市でという声につきましては、余り聞いてないかなと思います。

ただ、もちろん、それはそうなればいいという思いは、学校としてはもちろんあるのは当然のことだろうというふうに思っています。

水崎委員　特に声としては出されてないということなのですね、学校は。

小田原委員長　どうするかという方向づけは、今、和田委員からも提案があったのだけれども、考えておいたほうがいいというふうに思うのですよね、ここで話し合っ

石川教育長　少なくともこの抽出校の8%、小学校の8%というのは、これは参考にならないんじゃないかと思うのだよね。せめてやっぱり3分の1ぐらいが選ばれてなければ、そのデータに基づいて本市の全体をはかれるということにはならないから、やっぱりこの時点で、今後のことを考えなければいけなかったのかもしれないですけどね。私の責任でもあるけれども。

佐島学校教育部指導担当部長　今後の方向性については、また検討させていただいて、御報告をというふうに思いますけれども、現在、市の学力調査で行っているのは小学校4・5年生で、学力の経年変化を見るというようなことで、ある程度そのねらいを持って実施をしているもので、その中で小学校の子どもたちの学力の把握については、

ある程度されているものというふうに認識をしています。

今回、国の調査については、抽出校と希望校ということで実施をしましたので、委員の皆さんのお話のように、これをデータとして分析をして、八王子市の学力の現状を把握していくということは、難しいというふうには考えています。

しかし、各学校が、特に希望校については、手間はかかりますけれども、自校で採点することによって、すぐに結果分析が自校でできると。それを全国の状況と比較をしていく中で、自校の位置を、全国の中での位置を把握しつつ、弱いところをとらえて改善をしていくということには、各学校では活用できるのではないかなというふうに思っていますので、そのようなところで、各学校でやりたいという意思を尊重していくのか、それとも、市としてやはり小学校、中学校の学力把握をきちとした上で、学力向上策を考えていく必要があるのか、その辺を十分検討した上で、特に国の調査については、学習状況調査というのが加わっていますので、学力とその学習習慣、生活習慣等のかかわりについて分析できるのは、やはり国の調査の特徴ではないかというふうに思いますので、そういう部分が必要だということであれば、国の調査に手を挙げてやるような形で、各学校への支援を考えるか、もしくは市の調査にそういうものを加えて、市独自で分析できるようにするのか、その辺も含めて今後検討していきたいと思っています。

小田原委員長 単なる学力、単なる学力というと、また学力とは何かという話になるのだけれども、日ごろの学習の成果をはかる部分と、今、指導担当部長の話のように、学習状況調査というのがあって、ここでいつも話題になるのは、そういうペーパーによる学力だけじゃなくて、人間としての生き方とか考え方とか、そういうことをやはり育てていく必要がある。そのときには特に家庭の把握とか、問題とか、そういうところも含めて考えていかないと、成果は上がらないと、人間は育っていかないのだということがよく話題になるわけなのだけれども、そういう点を踏まえて、意識化するとすれば、全国規模の調査にできるだけたくさんの学校が参加する中で、全体像を考えていく必要があるんじゃないかなと、こう思うのですけれども、その方向で検討をしていただくということによろしいですか。

かなり、この学力調査、学習状況調査というのは、事業仕分けで振り回されちゃった部分がありますのでね、そういう政治的な部分もあるのだけれども、そういうのに振り回されないような形で子どもの把握は考えていかなければいけないだろうとい

うふうに思いますので、その観点で方向を検討していくということをお願いしたいと思います。

そのほかについてはいかがですか。

学力・学習状況調査の実施状況については、よろしゅうございますか。

またいずれ結果が出たところで、じゃ次年度どうするかということを考えていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、指導課からのお話は、報告は以上2点ということで終わりますけれども、ほかに何か報告する事項等はございますか。

坂倉学校教育部長 特にございません。

小田原委員長 特にございません、はい。

委員の皆さんのほうで何かございませんか。

川上委員 市の学力調査では、学習状況調査というものはあわせてはしていないということですかね。

小田原委員長 市の学力経年変化の4・5年の調査の中では、学習状況調査ということはやってないかということですが、これは市の観点でやっている。

宮崎指導課統括指導主事 はい、やっております。

小田原委員長 やっていますよね。

宮崎指導課統括指導主事 それとの相関というところも個票として。

小田原委員長 クロス調査みたいなことはやっていますよね。

宮崎指導課統括指導主事 そうですね、はい。

川上委員 ありがとうございます。

小田原委員長 ということで、これで予定された定例会の審議は終わりますけれども、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 特にないようでございますので、以上で本定例会の議事日程はすべて終了いたしました。

これをもちまして本定例会を終了いたします。

【午前9時37分閉会】